

# 富士見台中学校区

<p>交流事業として、実施できたこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生説明会…動画による小学生に向けての中学校生活紹介</li> <li>・小中連絡会…教員どうしの情報交換会</li> </ul>
<p>乗り入れ授業 ①(算数) ②(英語、数学、家庭科)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①中学校教員が週1で小学校へ出向き、算数の授業に参画</li> <li>②小学校教員が週1で中学校に出向き、授業にTTで参加</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習面だけでなく、生徒指導面でも児童の実態をみてもらうことで、児童理解をより深めることができた。</li> <li>・限られた日数・時間での授業であり、時間割の調整が難しかった。</li> <li>・授業後の情報交換の時間が確保できなかった。</li> </ul>
<p>カリキュラム編成に取り組んでいる教科・領域等 (特別活動)</p>	<p>毎学期の終末や学年末にキャリアパスポートを活用</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリアパスポートの活用を軸に校種を越えた関わりを見つめ直すことができた。</li> <li>・活用からみえてくる取組や内容の見直しをどのように図っていくかが課題である。</li> </ul>
<p>令和2年度の取組について</p>	<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中1ギャップの軽減や中学校への不適応からの不登校の減少が期待される。</li> <li>・児童会と生徒会の連携など、具現化するための連絡体制と時間の確保が必要である。</li> <li>・2つの中学校区にまたがる小学校における研究の進め方、調査や研究授業の在り方を考えていきたい。</li> </ul>
<p>令和3年度に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 子どもたちの交流(コロナ禍で難しいが工夫して) 陸上やバスケットを教えに行く活動 →小学生、中学生にメリットがある(教師主導でなくたてわりの効果有)</li> <li>* 特別支援の連携(中学校特別支援学級と小学校特別支援学級の交流) →中学校特別支援学級の親学級に小学校特別支援学級の児童が交流することは、中学生にとってよい効果と、小学生が中学校を知る良さがある。</li> <li>* 特別活動共通プログラム キャリアパスポート…小6→中1へ、中3→高1へ</li> </ul>